

近世中・後期福岡藩の夫役制度に関する資料：『遠賀・鞍手両郡夫役定書并追加』・『鞍手郡夫錢仕組建前帳』・『御国中郡夫村夫取分定書』

秀村，選三

<https://doi.org/10.15017/4474825>

出版情報：経済學研究. 45 (2), pp.39-55, 1980-04-10. 九州大学経済学会
バージョン：
権利関係：



近世中・後期福岡藩の夫役制度に関する資料

——『遠賀・鞍手両郡夫役定書并追加』・『鞍手郡夫錢仕組
建前帳』・『御国中郡夫村夫取分定書』——

秀 村 選 三

解 題

幕藩制社会の収取体系において夫役は一つの重要な構成的要素をなしていたと筆者は考えており、さきに福岡藩について二つの論文「福岡藩における夫役の諸題型」（『九州大学九州文化史研究所紀要』第5号）、「福岡藩における夫役の賦課法と規制」（宮本又次編『藩社会の研究』所収）を発表したが、これらは福岡藩の夫役賦課を主として「現夫」に限定し、その形態、類型、賦課の方法とその領主的規制について考察したものであった。しかし実際には夫役は相当早くから一部は錢納化されていたし、また錢納化された貨幣をもって現夫に対して、部分的に、また少額ではあるが賃金が支払われていたのであって、かかる夫役の錢納化と賃金支払については今後も研究が進められねばならない。ことに近世の夫役の最も重要なものは、土木普請の夫役と人馬交通の夫役であったから、当然それらの錢納化、賃金支払の実態を明らかにすることが重要である。

ここに収める史料は直方市感田故香月楽平氏旧蔵の文書で、現在直方市立図書館に所蔵されているもので、文化十年酉ノ三月改「遠賀鞍手両郡夫役定書并追加」、文化十年酉二月「鞍手郡夫錢仕組建前帳」および明和七年寅十二月「御国中郡夫村夫取分定書」3冊合冊の史料である。3冊合冊して全体の表紙があるが、標題はない。末尾には「安永藤四郎高寛改」とあり、もとは鞍手郡平村（平触）の庄屋（大庄屋）安永家の文書であったか、或は香月家で書写された文書が安永藤四郎によって点検されたのか、いずれかであろう。さきに本誌に紹介した「藩政一般作法」の末尾にも「万延二年酉二月上旬写之、鞍手郡平村庄屋安永藤

四郎◎」とあり、安永家の文書の一部が香月家へ移されたことも充分推測されよう。

筑前の遠賀・鞍手両郡は遠賀川という此の地域での大川が流れ、河川に関する土木普請の夫役が多く課せられており、他方この地域は所謂「筑前六宿筋」といわれ長崎街道の一部で人馬交通夫役が頻繁に賦課されており、そのため夫役の錢納化、賃金支払も他地域に比べて進んでいたのである。したがって、此の地域の夫役に関する史料を現夫、代錢納、夫錢支払いずれに関しても丹念に研究することは、近世中期以降の福岡藩の夫役の動向をうかがう上にきわめて重要であり、その一端として本史料を掲載するものである。なお明和七年「御国中郡夫村取分定書」は他にも異本が数点あるが、ここでは校合しなかった。他日行いたいと思っている。史料の掲載をお許しいただいた直方市立図書館に対し厚く感謝の意を表する次第である。

凡 例

1. 表紙以外は横書に改め、文中に句点（.）読点（,）並列点（・）を加えた。
2. 朱筆の文字は、その前後を「 」でくくり、行頭に*を付した。
3. 原則として当用漢字を用いたが、一部正字および異字を残した。
4. 𠂇、𠂈はすべて候に統一した。
5. 変体仮名はㇿ・𠂇・𠂈・𠂉のほかは平仮名に改めた。
6. 抹消された文字には、その下に――を付し、その文字の上に訂正の文字を示した。
7. まま（ ）を付して傍注を加えた。

本文

西ノ三月改	遠賀 鞍手 兩郡 夫役 定書 并追加	文化十年
*「夫仕組建前帳 御國中村夫取分帳 右三部三冊」		

(表紙)

(縦二五横一八)

宝暦十三未ノ年夫役諸切立減少之儀被仰出、同申年ノ遠賀鞍手兩郡夫錢之仕組相立、去子ノ年迄五ヶ年之間執行候処、以前ノ夫役格別減シ候ニ付、尚亦明和六年丑ノ四月相改、安永二巳ノ五月迄執行候。然ル処余郡之内小百姓中夫錢指出候義及難渋、仕組不折合之郡も有之、以前之通現夫仕イ之儀相願候ニ付、当春郡々委鋪吟味被仰付候処、遠賀・鞍手・宗像三郡ハ夫錢仕組年来執行、是迄仕組折合居候。那珂郡ハ近来仕組相立候得共夫錢仕組相好候ニ付、右四郡ハ是迄之通り夫錢仕組相願、重畳詮議候処、格別郡益多ニ付、此末弥居合候様ニ、其余之郡ハ不殘以前之通現夫仕イニ被仰付候。右ニ付此節兩郡夫錢仕組尚亦委鋪逐穿鑿候処、去々寅・卯兩年干慥強ニ付、養水を求メ候普請兼る極置候建前ニ不拘、新堤数拾ヶ所築立、其外無拋臨時之普請多、其上江戸御用之竹木追増分持出シ、巳ノ正月淨岸院様御通棺ホ之大臨時入方ニ、夫錢余分之仕イ趣ニ相成、當時借立を以償候得共、此末仕組難取積、重畳詮議之上、亦今般相改、来ル未ノ年迄三ヶ年之間、左之通相究候。右年数之内新規之諸普請ホ不仕、定格建前之普請も委鋪心を寄せ内輪ニ召仕、四ヶ年目

(クツロ)
ハ弥郡中甘キニ相成候様才判可仕候事。

安永貳巳六月

定

(肩カ)
一、遠賀郡ハ面役老人之出負貳拾六人、右代リ之夫錢老貫五百六拾文之事。

但シ、此内六人ハ増夫錢替リニ、来午ノ三月迄現夫仕ニ相極候ニ付、夫錢取立ハ是迄之通老貫貳百文ニ候。午ノ四月ハ未ノ四月迄之分ハ、午ノ春詮議之上、員数可相極事。

*「△右夫錢中比之詮義と相關候。遠賀郡面役老人之出(肩カ)負貳拾人、右代リ之夫錢老貫四百四拾文ニ相成、今以右之通ニ付、但書不用候事。

但シ今般年限を以老人六拾文宛切立増之事。委細可為追加之通候事。」

一、鞍手郡ハ面役老人之出方拾八人、右代リ之夫錢老貫八拾文之事。

(肩カ)
△右同断、鞍手郡面役老人之出負貳拾人、右代リ之夫錢老貫貳百文ニ相成、以今右之通ニ候事。

但シ、年限ヲ以切立増候事遠賀郡ニ同シ。

一、面役帳唯今迄之通毎年四月切可指出候事。

*「△面役帳四月ニ指出候ハ、指支候義有之候ニ付、当年より三月十五日を限り役所ヘ可指出候事。」

一、遠賀郡ハ現夫仕イ之分面役数ニ六人を掛、村別夫数書附可指出候事。

*「△當時之取行ニ候得ハ此ヶ条不用之事。」

一、右面役帳相揃候上、郡中之惣夫高を以、於役所ニ夫仕イ之口ニ建前を極、現夫仕イ・賃錢仕イ、其口ニ相応ニ取分、帳面ニ仕立可相渡候間、夫仕イ之節、右建前ヲ踏ハ不入越候様ニ可仕義ハ勿論、諸口致減少候様ニ專出情可仕候事。

*「△本文之現夫・賃錢仕イ分ヶ之義、前ヶ条之末ニ、當時不用之事。」

一、夫錢も毎年四月、十月兩度ニ取立、定置候預リ主ニ(納証扱カ)村々ノ左之案文之通兩度□を以相払せ、一触皆納之上、右納証扱役所ニ指出、割判取候ハ、又村々ニ渡置可申候事。

但シ、右払方引附ハ預リ主、村々共ニ役所ノ可遣候事。

*「△夫錢取立方之仕法、當時追加を以相施候通可取行事。」

一、夫錢算用之儀、触々共ニ六、七月ニ老度、翌正月、二月ニ老度、預リ主払方之諸証拠を以大庄屋元ニ算用仕、兩郡分於郡屋大庄屋立会相しらへ、役所ニ致持參可遂算用候事。

*「△本文算用之事追加之通可執行事。」

一、遠賀郡現夫仕イハ明和三戌ノ三月ニ申附候通、村々惣割ニ遠方之村も加リ往返致苦勞義ニ付、今般相究候触切建前之通召仕イ、現夫指出候村ノ夫錢請取証拠同前ニ夫証拠仕出シ、大庄屋致奥判役所へ差出、聞届判取置、夫錢算用之節一同ニ算用可仕候事。

但シ、来午ノ三月追召仕候分証拠を以遂算用、現入切高惣面役数ニ割当リ村々過不足指引之上、過不足分ハ六拾文之夫錢を以、出過之村々ニ可相渡候事。

*「△當時之執行ニ候得ハ本文之ケ条不用之事。」

一、都る夫錢受取方之儀々、請取主ノ夫錢預リ主ニ對候請取証拠、左之案文之通仕出シ、大庄屋致奥判役所ニ指出、渡リ判取受取可申候。尤急場入用之節ハ、仮証拠ニ其次第大庄屋致奥書相渡置、追々本証拠ニ引替可申候事。

一、御參勤上下御成達人馬賃錢相渡候節、左之通之事。

一、郡薪其外一切郡寄諸品ハ、左之通定直段を以買立可申候事。

一、御当用竹木并郡用共ニ郡次ニ持出分、兩郡内ハ山所ノ直ニ入用之所迄持届、賃錢其郡之里数ニ応シ致割方、請取証拠兩郡分仕分け、式枚ニして可指出候事。

一、遠賀郡浜山植立夫、其年々山奉行見分之上、才判有之事ニ候間、賃錢受取証拠ニ山奉行証拠相揃へ指出、渡リ判取可申候事。

一、御茶屋々々并御軒付ニ加リ候寺社々、都る御当用

普請入用茅繩蔦蔦之類、代錢御当用より被相渡候条、受取証拠御銀奉行ニ對シ仕調、御普請方并御茶屋奉行其請取之鼻ニ証拠可指出候事。

但シ、竹木持出夫、職人手伝夫ハ夫錢ノ賃錢相渡候事。

一、黒崎・木屋瀬兩宿間通り仕組、郡中ノ足賃錢去ル酉ノ年相究候根証文之通りニ候。其年々宿面役郡並ニ致指引、足シ分請取証拠指出渡リ判取可申事。

*「△本文宿面役當時ハ授受ニ相成候ニ付、右指引建前帳之通たるへく候事。」

一、村次狀ハ一切村切たるへく候。乍然至る村次多所柄ニ建前帳之通夫錢投ニ相渡候事。

一、出郡之面々荷物送り人馬村々共ニ、左之案文之通其触之大庄屋ノ通帳仕立相渡置、入用之節人馬數書記、其仁之印形取置、追々大庄屋ニ指出、賃錢定之通盛付、大庄屋致勘定、請取証拠相添役所へ指出、渡リ判形取可申候事。

一、大庄屋万触狀持出夫、急觸狀廻リ夫、郡中他郡飛脚夫、大庄屋召連夫共ニ大庄屋居村夫召仕候。夫錢此節詮義之上、建前之通投ニ相渡候事。

一、庄屋、組頭、諸用受持之者、郡中触用ニ付諸方罷越人足召仕候節ハ、其度々役人荷物送り夫通ニ付込、大庄屋印形取置賃錢受取可申事。

一、大庄屋ノ福岡ニ指立候定飛脚、是迄之通通帳ニ指立候日付ハ大庄屋ノ書記、福岡引取候日付ハ役所ニ可書記候。賃錢受取候節ハ、通帳ニ定飛脚盛附候る、奥メ大庄屋印形いたし、受取証拠相添役所へ指出、渡リ判取可申候事。

但、定飛脚是迄老触々ヶ月老度半ニ候処、臨時飛脚も多く候ニ付、此節詮義之上、一触一ヶ月式度充ニ相究候間、此以後臨時ハ可成たけ可相止候。若村方ニ限りたる急用之節ハ、其村ノ可指立候事。

*「△臨時飛脚之事追加之通たるへく候事。」

触々定飛脚日割

二日小石触	四日山口触	六日陳原触
八日竜徳触	十日岩瀬触	十二日木屋瀬触

十四日虫生津触 十六日小石触 十八日山口触
廿日陳原触 廿二日竜徳触 廿四日岩瀬触
廿六日木屋瀬触 廿八日虫生津触 廿九日植木触

一、普請方庄屋の両郡中村との掛合候書状ハ、村次可相立候。若急用之節ハ飛脚も可指立候。其度々夫証拠を以召仕イ、一ヶ月切り夫通ニ付込、大庄屋印形取置賃銭受取可申候事。

一、賃銭相渡候夫仕イ、多くハ請負ニ可申附候条、村受又モ耆人立候も勝手次第ニ可申出候。乍然大庄屋村庄屋耆人立請負仕候ハ、其業紛敷うたかひを請、仕組之障ニも相成ヘクニ付、都る役儀を請持候者ハ無用ニ候。尤村中受ハ庄屋、組頭引受、銘々請負仕候心得ニ、村中為ニ相成候様ニ致才判、若余銭有之候ハ割渡、損銀在之候モ村中弁ニ可仕候事。

附リ、其所其事ニ応シ其道を得たるものを加ヘ、工夫鍛錬を以百人ノ業纔拾人弐式拾人ニ替輒相仕廻候手段も可有之事ニ候間、常々心を寄詮義可仕候事。

一、堤普請并諸普請、秋仕廻り分ハ六月上旬、春普請モ十二月上旬、右兩度ニ普請有無し頭付斗リ一触切取集メ、大庄屋遂詮義、指向候普請之分取分ケ、入用之板、材木、杭葉、願帳相添ヘ役所ニ可差出候。右定月を越、追々普請之義於申出ニハ、其村庄屋、組頭急度越度可申附候事。

一、右指出相揃候上、其時之見分之儀申附組をも可指出候条、夫仕組役掛之もの手を分ケ、其触之大庄屋其村庄屋立会致見分、夫積其外諸品共ニ其場所^(にカ)おゐて座取いたし、夫仕イ之義ハ見分相仕舞候上、郡屋ニ打寄其年々之建前を踏エ詮義可仕候。村々ハ田畠専要之儀ニ付、無他事大切ニ存申出候ニ付、願前之普請ハ限りもなき事ニ候。然共有限之夫数を以限無キ普請悉く仕調候様ニハ不相成事ニ候間、緩急を取分、可成程ハ可指延候。又モ村夫ニハ仕調させ、急難之所を撰ひ、其普請所々模様ニ随ひ、現夫賃銭取分ケ、右之内受負申附可然口々ハ入札致させ、又ハ何レモ詮義次第見込を以直ニ申付候様ニ相しらへ、見分帳ニ現夫日用受負之義其廉々ニ書記、見分帳入

札共ニ普請方庄屋役所ニ持参いたすべく候。詮義之上聞届判いたし相渡、普請之義可申附候事。

*「△本文夫仕組役掛之者と在之候得共、当時右役掛と一役立候者無之事ニ付、大庄屋、庄屋立会取約之義、本文之通堅可相守候。

但シ、春秋普請見分堅組指出候ニ付、見分帳ハ受負入札ホも組之面々持帰候上、遂詮義ニ付、普請庄屋持参いたすニ不及候事。」

附リ、旱損村ニ新堤を築、水難村ニ水かこひ之土手を築、或ハ川を堀替、湿拔之溝を堀候類、下田も上田ニ相成、間ニハ御所務増ニ可相成所も可有之候間、格別之益筋見ハ難指置場所ハ、臨時之普請たり共立前之夫数不越分ハ仕調候様ニ可仕候事。

*「△此附紙之本意違失可致様無之候。併当時夫錢指支ニ付、此節仕法相立年限を以夫錢切立増をも申附候折柄ニ付、右年限中臨時之普請ハ堅見合候様可相心得候事。」

一、前々堤普請仕後ニ相成、田方致日焼候義も間々有之事ニ候。此以後ハ専上上ニ仕調可申候。若不相成所柄ハ上後早々相仕舞候様ニ遂詮義、其所之模様ニ随ひ何月普請と相究、見分帳ニ書記可指出候。右之外諸普請ハ翌三月限り相仕廻候様ニ詮義いたし、是亦何月普請と見分帳ニ書記可指出候事。

一、諸普請仕調候日ハ十五日限り左之案文之通仕廻目録并大工賃銭受取、夫錢受取共ニ差添ヘ役所ヘ可指出候。右日限を越候ハ指出候分ハ庄屋^(にカ)科料可申付候事。

但、井樋唐戸仕廻目録相添指出可申候事。

*「△本文之取斗近来緩セニ相成居候と相聞候。以来堅書面之通申附候条、村々庄屋中重疊相心得居候様可申付候事。」

一、村々年来存立候大造之水求水吐普請、亦ハ一村団并耆作稲作ホ致出来、至る村益ニ相成候普請、建前之外ニ付、容易難調分有之候ハ、不指置遂詮義、惣入目積候上、残高耆買目込ハ半分ハ村々現夫賃銭之間指出候ハ、半分ハ夫錢臨時ハ可相渡候。耆買百目より式買目込モ三ケ二、村々三年賦ニ相納候ハ、三

ケーも夫錢が可相渡候。貳貫五百目が三貫目迄ハ三
ケ二、村が五ケ年賦ニ相納候ハ、三ケーハ夫錢が
可相渡候。其余ハ詮義之上村救拝借ホ之可及沙汰事。

一、触る普請組合村庄屋共不絶申談、洪水ホ之節も銘
と村夫召連相互ニ抱内を廻り、堤溝川土手を始井樋
竅ホニ至込心を付、若破損所有之候ハ、早速ニ取締
イ、不及大破候様ニ可仕候。夫数余分ニ入候ハ、郡夫
ニ相立可遣候間、入切之夫数相調申帳面仕立、出屑之
人別判形取可指出候。惣る組合村ハ一村同前ニ相心
得、自然難防儀も出来候節ハ、他村たり共村夫指出
相防可申候。不心掛ニ及大破候欤、又ハ常々鹿末
之義於有之ハ急度曲事可申付事。

一、自然洪水ホニ及大川土手、汐田土手堤ホ及大破候
節も、方角之夫仕組役掛り之者も早速駆付、即時ニ
積方仕、現夫日雇受負入札ホ之義相究、普請之手当
仕候る見分帳役所へ可指出候事。

*「△夫仕組役掛り之者当時關役ニ付大庄屋、普請方、村
庄屋立会積方可仕候事。」

一、村夫ニ及仕来候普請、是迄之通弥無懈怠三、四月を
限り一切相仕舞可申候。川筋水通を直し、千寄を取
除ケ、刎を附、或ハ堤野入留ホ之類常々心掛、村夫
ニ及いたし候儀指捨置、夫数余分入候節ニ至、村夫
ニ及難凌ニ付郡夫願出、或ハ右之怠^(ママ)之水ニも破
損ニ及候儀間々有之、其村之庄屋・組頭・百姓中と
してハ其恥辱ニ可存処、郡夫申請候義却る手柄之様
ニ相心得、甚風俗不宜、不屈之至ニ候。向後ハ見分
之節右之所を相正シ可申出候。遂詮義弥怠ニ究候村
方も急度科代可申付候。猶亦村夫仕方之定此節詮義
之上、左之通り相究候間、村も無違乱可執行候。

尤村役軸帳之事無怠可指出候事。

*「△本文村役軸帳之義重畳立入相しらへ、当六月限可
指出候事。

又御附紙

○村役軸帳之儀、六月切ニ申付置候得共、当年ハ
春已来様々大庄屋、村役人共ニ繁用有之候故、当
八月迄日延ニいたし遣し、八月限り堅可指出候。
勿論其内出来之分ハ他触ニ不拘一触切可指出候

事。」

一、諸口之夫仕建前が致減少、先々夫錢之有余も出来
候ハ、不意之夫仕有之候共、可成たけハ臨時之切
立不致、右之有除^(ママ)を以可相済積ニ候。依之夫仕之外
兩郡内いケ様之義有之由も、決る不相渡儀定ニ候。
右之通ニ付、聊御上御益筋之儀ニ及無之、全郡中之
甘キ大庄屋より遊民ニ至迄銘々身為ニ候条、何レも
相はまり出情可仕候事。

御参勤御上下御成達人馬賃錢定

一、底井野が黒崎迄	人足壹人 馬 壹疋	
一、底井野が小倉迄	人足壹人 馬 壹疋	
一、底井野が大里迄	人足壹人 馬 壹疋	
一、底井野が木屋瀬迄	人足壹人 馬 壹疋	
一、黒崎が小倉迄	人足壹人 馬 壹疋	百貳拾文 貳百四拾文
一、黒崎が大里迄	人足壹人 馬 壹疋	貳百文 四百文
一、黒崎が木屋瀬迄	人足壹人 馬 壹疋	百貳拾文 貳百四拾文
一、黒崎が赤間迄	人足壹人 馬 壹疋	貳百四拾文 四百八拾文
一、底井野が赤間迄	人足壹人 馬 壹疋	
一、木屋瀬が黒崎迄	人足壹人 馬 壹疋	百貳拾文 貳百四拾文
一、木屋瀬が赤間迄	人足壹人 馬 壹疋	百六拾文 三百貳拾文
一、木屋瀬が底井野迄	人足壹人 馬 壹疋	
一、宿内夫	星九拾文	
一、除り人足	人足壹人 馬 壹疋	六拾文 百貳拾文

右ハ戻り道遠近ニ不拘相渡候事

役人荷物送り人馬并内夫飛脚賃錢定

一、荷物送り行駄夫共ニ	半里以下 人足壹人 馬 壹疋	貳拾四文 三十六文
一、荷物送り行駄夫共に	壹里以上 人足壹人 右同 馬 壹疋	四拾文 六拾文
一、内夫壹人ニ付	星求	六拾文
一、役人諸見分終日勤	人足壹人 但シ夫留之内	八拾文宛 百文宛
一、福岡飛脚夫	一日壹人	上駄手 百貳拾文宛
一、他郡之内飛脚	壹里ニ付	四拾文宛

郡薪郡寄諸品定直段

一、風呂桶壹ツニ付	損料	百八拾文
一、薪壹ノニ付	但シ三尺 繩ノ	代錢 貳拾七文 三拾六文 木屋瀬弘 底井野弘
一、半繩壹束ニ付	但シ 貳尺五寸廻り	代錢四拾文

近世中・後期福岡藩の夫役制度に関する資料

一、空俵壹俵ニ付代銭 上拾貳文
中拾文
下八文 *「御付紙
〇一、空俵壹俵ニ付
上拾貳文
中拾四文
下拾貳文」

*「文化十年酉ノ五月遠賀郡

大庄屋中依申出当年ノ丑年迄

五ヶ年之間此朱書之通相渡遣候事」

一、小縄壹束ニ付 但シ貳尺五寸手くり 代銭四拾文
一、木取縄壹束ニ付 但シ貳尺五寸手くり 同 百貳拾文
一、沓間蔭沓枚ニ付 但シ六符 (マ) 同 貳拾文
一、貳間蔭沓枚ニ付 但シ六符 代銭三拾八文
一、貳間蔭天并蔭沓枚ニ付 但シ六符みかき 同 八拾文
一、御上段御鋪蔭沓枚ニ付 但シ六符沓間しべより あみはたとり 同 八拾文
一、茅沓メニ付 同 四拾文
一、藁沓抱ニ付 但シ秋束 同 四文

一、蔭沓枚ニ付 代銭三拾六文 *「御付紙
〇一、蔭沓枚ニ付 代銭四拾八文
文化十年酉ノ五月ノ来ル丑ノ
年迄五ヶ年間右之通相極候事」

一、蔭縄壹束ニ付 同 三百貳拾文

一、葛沓貫目ニ付 同 六拾文 *「御付紙
〇一、葛沓貫目ニ付 三百文
代銭 千葛 六拾文
生葛 同 断

一、明松沓挺ニ付 同 八文

一、竹簀沓本ニ付 同 八文

一、草簀木沓本ニ付 代銭八文

一、草履草鞋沓足ニ付 同三文 *「御付紙
〇一、草履沓足 代銭五文
〇一、草鞋沓足 同 四文
右同

一、銅葉沓貫目ニ付 同 六拾文

一、荒唐沓石ニ付 同六拾文

一、勝藁沓丸ニ付 同貳拾五文

杭葉笹小竹葉緒葉伐指出賞銭定

一、杭木沓本 長壹丈貳尺
中ニ而壹尺廻り
半繩ニ而メル 但シ里數壹里半持出シ 山ノ黒川迄
賞銭四拾九文

同三文 黒川ノ下大隈・猪熊之間
舟ニ而横廻ス川端揚置迄

メ五拾貳文

一、杭沓本 (長壹丈
中ニ而八寸廻り
半繩ニ而メル

右同

賞銭三拾文 山ノ黒川迄

同 貳文 黒川ノ下大隈・猪熊之間
川舟ニ而横廻ス川端揚置迄

メ三拾貳文

一、同沓本 (長八尺
中ニ而七寸廻り
右同断)

右同

賞銭拾八文 右同

同 貳文 右同

メ貳拾文

一同沓本 長六尺
中ニ而六寸廻り

右同

賞銭九文 右同

同 沓文 右同

メ拾文

一、葉笹沓把 貳尺五寸メ

右同

賞銭七拾文 右同

同 四文 右同

(四脱カ)
メ七拾文

一、小竹沓束 貳尺五寸メ

右同

賞銭七拾五文 右同

同 四文 右同

メ七拾九文 *「御付紙
一、小竹沓把ニ付 代銭百貳拾文
右同断 酉ノ五月」

一、葉緒沓把 貳尺五寸メ
但シ長八尺

賞銭四拾六文 右同

同 三文 右同

メ四拾九文

一、菜沓把 四尺廻り

賞銭拾貳文 右同 同沓文五分 右同

メ拾三文五分

一、山獐犬附夫 老人ニ付 賞銭九拾文宛

但シ郡目附山奉行御家老衆家頼遣証抛引合

相渡ス分、并依願打払之節も同断之事

一、同猪鹿鼻夫 老人ニ付 同七拾貳文宛

右同断、依願打払之節ハ其村夫賞銭之不沙汰及

候事、

右両ヶ条未ノ三月團右衛門様御出郡之節、木屋瀬ニ

る相極ル。

メ

村夫仕ひ方之覚

- 一、提仕掛溝，田地水取溝，田地水吐溝，此外田畠の
掛り候村普請一切
右ハ田畠畝高之間ニる致割方可召仕事。

- 一、道橋宮普請一切

右ハ人別割を以可召仕候事。

- 一、近村飛脚

右 同

- 一、右之外諸役目

右ハ面役割ニる可召仕候事。

右之通ニ相定村ト一統ニ可執行候，尤^(スミヤカ)丞ニ大庄屋の
村役勤高遂詮儀，口ト相記，奥メ割当ヲ記候軸帳調
させ役所^(ニ)差出，聞届取，米錢軸帳同前ニ一冊ハ百
姓^(ノ)渡シ，一冊ハ庄屋手許^(ニ)召置候様才判可仕候。

但シ，村役高割分米錢之間ニる仕組相立候義勝手
次第ニ候。此類米錢之割当リ本文之通り可仕候
事。

夫錢納証抛案

何村夫錢当何月分納証抛之事

- 一、六拾文錢何百何拾目

何村庄屋
何某

年号月日

何村
何某殿

夫錢請取証抛之事

何村ト何御用夫錢受取申証抛之事

- 一、六拾文錢何百何拾何匁何分

何人何拾文匁

何村庄屋
何某

年号月日

何村
何某取

右之通相違無御座候。已上

何村大庄屋

何某

年号月日

出郡之面ト荷物送り人馬通帳案

何村諸御役人様方御荷物送り人馬并御泊リ之節，内
夫其外御用ニ被召仕候人馬共御証抛判申受ル通之事。

何村大庄屋
何某

年号月日

- 一、人足何人 何村ノ何村迫

- 一、馬 何疋

- 一、内夫何人

何月何日

何之何某

メ

何郡何村普請仕廻目錄之事

ほのけ

- 一、何土手長何百間 <sup>(根置何間
高サ何間
築留何歩)</sup>

土何拾何坪

夫何百何拾人

沓坪何人掛ケ

杭木何百何拾本

長何尺

何本持

葉笹何十把

メ

- 一、同何拾間

根置何間
高サ何間
築留何歩

土何拾何坪

夫数何百何拾人

沓坪何人掛

メ夫何百何拾人

内

何拾何人 村夫

杭葉伐出并土手
併夫共

残る何百何拾人

内

何拾人 何村

何拾人 何村

右之通何月何日切，普請相仕廻申候。已上。

年号月日

何村庄屋
何某
何村普請庄屋
何某

近世中・後期福岡藩の夫役制度に関する資料

味岡團右衛門様 御役所			ノ	廿三	陳原触		
右之通相違無御座候。已上							
何村庄屋 何かし			折尾村	則松村	永犬丸村		
			下上津役村	上々津役村	引野村		
同年日月			穴生村	陳原村	市瀬村		
			ノ				
何郡何村井樋唐戸普請仕廻目錄之事			楠橋村	香月村	畑村		
ほのけ 一、指井樋耆ヶ所			馬場山村	小峯村			
但シ指戸何枚			ノ				
松板何枚	長何間 幅何尺 厚貳寸五分	両堅板	(鳴力) 唱水村	熊手村	藤田村		
同 何坪	厚貳寸五分	天井底板	前田村	尾倉村	枝光村		
同 何寸角何本	長何尺	さん木	大蔵村				
杭木何本	長何尺 末口何寸	戸前柱木 笠木	ノ	廿壹			
同何本	長何尺 末口何寸	まくら木				小石触	
五寸釘	何百本		山鹿村	魚町	乙丸村		
四寸釘	何拾本		蟹住村	塩屋村	大鳥居村		
大工	何拾工		小敷村	浅川村	高須村		
右之通御普請何月何日切 = 相仕廻申候処相違無御座 候。已上			ノ				
年号月日			有毛村	安屋村	竹並村		
			何村庄屋 何某	弘川村	頓田村	小竹村	
			何村組頭 何某	畠田村	本城村 御開	本城村	
味岡團右衛門様			ノ				
			二罵村	藤木村	修多羅村		
			小石村	戸畑村	中原村		
遠賀郡普請組合村附			若松村				
虫生津触			ノ	廿五			
虫生津村	別府村	上底井野村	岩瀬触				
中底井野村	下底井野村	今古賀村	中間村	岩瀬村	吉田村		
嶋津村	小鳥掛村	尾崎村	二村	下二村	伊左座村		
ノ			比末村	立屋鋪村	杵村		
海老津村	上畑村	高倉村	古賀村	猪熊村			
野間村	山田村	糖塚村	ノ				
黒山村	戸切村		垣生村 (鬼力) 畏津村	木守村	広渡村		
ノ			若松村	芦屋村			
吉木村	三吉村	手野村	芦屋町				
内浦村	原村	松原村	ノ	十八			

合村数八十七ヶ村

鞍手郡普請組合村附

竜徳触

下新入村 上新入村 竜徳村

霧田村 本城村

ノ

南良津村 新山崎村 勝野村

新多村 磯光村

ノ

上大隈村 宮田村 原田村

金丸村 長井霧村

ノ

山口触

山口村 沼口村 竹原村

福丸村 芹田村 下有木村

四郎丸村 倉久村 上有木村

水原村

ノ

金生村 下村 湯原村

脇田村 乙野村 小伏村

ノ

高野村 稲光村 平村

宮永村 黒丸村

ノ

和田此外 (犬鳴谷
脇山畑)

植木触

小牧村 下大隈村 上木月村

木月村 古門村 新延村

長カ谷村 猪倉村

ノ

植木村 中山村 新北村

長谷村 室木村 八尋村

木屋瀬触

木屋瀬村 感田村 知古村

山部村 直方町 頓野村

ノ

野面村 笹田村 金剛村

上頓野村 畑村

ノ

永満寺村 上境村 下境村

赤地村 御徳村 中泉村

ノ

右之通条々御年番四兵衛殿に相伺候処、御聞通被成、無懈怠可執行旨被仰聞候条、両郡中之者共堅可相守者也。

味岡園右衛門

安永貳年巳六月

追 加

一、此度詮儀之上、両郡夫錢取立耆人ニ付丁錢六拾文増ニ申附候。其訳ハ先年仕組取起之砌、暫ミ米穀も下料ニ有之、夫数一日内外之飯米代も凡相償候見込を以、耆人之夫錢七拾貳文、一ケ年之夫錢遠賀ハ貳拾人と積耆人ニ付丁錢老貫四百四拾文、鞍手ハ凡拾八人之積を以、同老貫貳百文と切立高を極たるものニ候得共、近年之米穀直段ニ多シ諸普請ホニ召仕候出夫之者忸モ別多及困窮候趣相達、無扨次第ニ付、當時之振合を以夫錢増渡之義加評儀候処、此儀其大造之事ニ多難取斗候ニ付、先ツ乍纔耆人ニ付増ニして、以来一日耆人ニ付八拾文之極ニいたし遣度、夫も都多之夫役ニモ難行届候ニ付、御免用道橋ホ之諸普請ニ召仕候分斗、右之通申附、其余之夫役ハ定書之通申附候。惣多此仕組中以上之百姓ハ夫錢を出シ候ニモ苦勞薄く、小き百姓程夫錢之才覚六かしく候得ハ、何卒一ケ年之拼夫貳拾人ニ宛り候を貳拾五人も相勤、自身ニ夫錢之才覚ニ不及、勤過之夫錢をも取戻候ほとニ無之候多難凌、又、中已上之百姓高給を出し荒仕子ホ召仕候ものハ、夫錢ハ多分ニ出し候多も、現夫を少く勤候方甚勝手ニ相成事ニ候。斯申聞候迎中已上之もの現夫を嫌ひ自由を構、時節をも不弁、小百姓のミに現役を譲候様成、不風俗之所行可有之様ハ勿論無之事ニ候得共、夫仕組之益筋ハ右触之所ニ有之事ニ多、たとへモ小百姓共耆人ト出す

夫錢も一ヶ年六拾文之増^ニ、請取候夫錢一ヶ年貳拾五人之現勤^ニして屯人役八文増之分凡貳百文^ニ相当候。勿論右貳拾五人不殘普請夫^ニ召仕候^ニも無之事^ニ付、必右之通之益可有之^ニも無之候得共、何れ小百姓之方^ニ不益ハ無之、左候得ハ自ら窮民御厭之御主意^ニも相当候^ニ付、旁右之通相極候事。

*「○御付紙^ニ本文之通此節夫錢八文増之義、御免用道橋^ホ之諸普請^ニ召仕候分斗^ニ相渡候段申付置候処、御免用を離候夫仕イハいケ斗も無之^ニ付、一統八文増八拾文仕之儀、大庄屋中^ノ相願候^ニ付、重疊加吟味候処、御免用其外道橋^ホ之諸普請之外^ニも、左之ケ条^ニ已之事^ニ、纔之夫錢と相見候^ニ付、申出之通一統八拾文仕^ニ申付候。尤是以当西ノ年^ノ丑ノ年迄五ヶ年相試候上ハ、尚亦加詮義可申候。内夫或ハ諸飛脚、里数^ニか^{（古カ）}り或ハ受負^ホニ^{（是カ）}相渡候夫錢ハ、相来^ノ之定法之通、勿論増減之沙汰^ニ不及候事。

- 一、御入所砂持垣結掃除夫手伝夫
- 一、御軒付寺社手伝夫
- 一、御破戸仕調荷物付下シ夫
- 一、寸志植立御山輪地焼消夫
- 一、山川御猟御漁場所諸仕夫

／＼

」

一、此節改候建前帳前^ニ候得共、余錢も多く相見候^ニ付、前條之夫錢八文増丈ケ之儀ハ右余錢^ニも可償相見候得共、近年打重り候口^ノ指支之夫錢、先役村上又左衛門借り立を以相渡遣候分六錢百拾三貫目余、同人兼^{（ママ）}申聞候通是悲百姓中^ノ可致返済、去冬ニかけ指纏候分六錢五拾老貫目余夫^ノ道付遣候分も同様^ニ候間、唯今仕戻之法相立不申候^ハ不叶事^ニ候得共、別口^ニ相立候^ハ上納数^ニ相成、勘弁不行届者ハ新規之出錢之様^ニ存、心得違も出来可申^ニ付、別儀之取立ハ不申付、右余錢を以償遣積^ニ付、前條之増夫錢^ニも難取用候。右償相済候上、弥積前之通、余錢有之候得ハ増切立相止メ候^ニ付、先右之増切立ハ当年^ノ五ヶ年迄六ヶ年と相心得可然候。

左候得ハ弥此節之建帳前を以、夫仕相続候様、何れも出情才判之心得肝要^ニ候事。

一、郡夫を以仕調候普請、見^{（是カ）}迫遠賀郡願村夫一順充出捨^ニ取斗イ、鞍手郡ハ夫高之内貳割村夫出捨、尚又杭葉伐出村夫之内六歩出捨^ニ取斗イ来候得共、夫仕古格^ニ違候^ニ付、当春普請^ノ右取斗イ相止メ、定書之通相心得、郡夫之指別ハ明和七年先役共連印定書前堅相守候。右定書中絶^ニ付此節相渡候事。

*「○御付紙、杭葉持出村夫勤捨^リホ之義^ニ付、此節両郡大庄屋共申出候趣、只今聊^ニ難相決候^ニ付、再応相調子候上、追^{（ママ）}可令指図候。夫迄ハ本文之通相心得、猶不得止事次第有之ハ其時^ニ可申出候事。

（文化）
文十西五月

」

一、夫錢取立之義、仕法此節相改メ年々四月十月兩度共^ニ役所当用方組之者郡屋^ノ指出、堅其月廿九日限取立させ候条、村々共其心得、前廉銀主^ノ弘方相仕廻置、納証廻銀主割判有之分、右組之者^ノ指出引合取可申候。一紙預リハ銀主^ノ組之者^ノ直^ニ指出候様可申付置候事。

但、銀主^ノ之引付帳ハ役所^ノ相渡候。村々之所ハ是迄之通切出帳を以大庄屋^ノ可相達候事。

一、触^ニ共^ニ毎年六・七月、正・二月大庄屋夫錢算用之事。当時ハ相止居候^ニ付、以来共^ニ大庄屋不及算用、毎年四月夫錢取立として請持組郡屋出方いたし候節、銀主算用をも為致、新古預リ引替算用目錄取帰候様申附候事^ニ候。其旨可相心得候事。

一、臨時飛脚之事ハ定書但書之通可相心得候。尤以来ハ臨時飛脚間通ハ別帳^ニいたし、指立候度々如何様之御用^ニ定飛脚難相待、臨時飛脚差立候と申談、委鋪間通帳^ニ書記差出可申候。右訳書無之分ハ通帳^ニ役所^ノ無賃之書込いたし遣候事。

一、御參勤御上下一切

*「○御參勤御往来送り人馬御道造夫ハ現夫仕事

但シ、地仕并内夫諸品代錢諸損料諸飛脚賃錢ハ相渡事。」

一、御成達一切

*「○御成達之送り人馬，御道手入夫ハ現夫仕イ兩度目
ノ一切夫錢相渡候事。

此二ヶ条之儀ニ付，兩郡大庄屋中申出候通加朱書
候。年限之間相試可申候事。

文十酉ノ五月 御郡屋ニ御付紙」

一，洪水荒諸普請一切

但，非常之大破ホニ現夫仕手ニ不及分ハ，

別紙之詮儀を以，普請之義其時ト評義を加，

百姓困窮ニ不迫様遂才判可遣候事

一，別紙郡夫村夫取分ヶ定書十三ヶ条之内ニ，往還平
日手入，其村切ニ受持相仕舞定前ニ候処，今程兩郡
内往還手入モ郡中村ト割付受持居候事ニ付，当時
是迄之通り申附置候事。

右定書之内朱書之廉々并追加之趣者，夫仕試之年
限中追トニ相補，加除之ヶ条モ可有之ニ付，其方
共別心^(圖)を寄，損益之次第不關可申出候事。

文化十酉年五月

(表
紙)

文化十年	鞍手郡夫錢仕組建前帳	酉二月	三冊御渡方ニ相成候	同夫仕組建前書帳	御國中村夫取分帳
------	------------	-----	-----------	----------	----------

面役千貳百六拾六人五歩五厘	一，六錢貳拾六貫五百九拾七匁五分五厘	竜徳触
面役千七百三拾八人	一，同三拾六貫四百九拾八匁	山口触
面役千四百七人九歩五厘	一，六錢貳拾九貫五百六拾六匁九分五厘	植木触
此外直方木屋瀬投渡分除ル 面役千五百五拾人考歩	一，同三拾貳貫五百五拾貳匁考分	木屋瀬触
面役五千九百六拾貳人六歩	六錢百貳拾五貫貳百拾四匁六分	但考人ニ付 貳拾匁匁充

右ハ四月・十月兩度納分

内

竜徳触

貳貫目

右ハ免用春普請建前

貳貫五百目

右同断 秋冬普請建前

三百九拾目

右ハ節村投渡錢

内	百三拾目 竜徳村	八拾目ハ勝野村
	百貳拾目 長霧村	六拾目下新入村

五百目

右ハ大庄屋元諸飛脚賃錢投渡

六錢五貫三百九拾目

山口触

五百目
三貫目

近世中・後期福岡藩の夫役制度に関する資料

右ハ免用春普請建前
三貫六百目
右同断。秋冬普請建前
三百七拾目
右ハ節村投渡
内 八拾目 山口村 七拾目 沼口村
百貳拾目 福丸村 五拾目 脇田村
五拾目 四郎丸村
三拾五匁ハ
右ハ犬鳴谷ヨリ猪野越道手入夫錢 犬鳴谷投渡
六
五百目
右ハ大庄屋元諸飛脚賃錢^并投渡、福岡在郷相迎夫
共ニ
七百目 定飛脚返帳、臨時飛脚共ニ
メ六錢七貫五百五匁
(貳貫三百目
右ハ村々人馬通帳前

植木触

貳貫目
右ハ免用春普請建前
三貫目
右同断秋冬普請建前
五百六拾目
右ハ節村投渡
内 八拾目 新北村 百貳拾目 植木村
貳百目 長谷村 八拾目 下大隈村
八拾目 木月村
百貳拾目
右ハ長谷村諸役人泊リ多ニ付、小村之儀故格別
を以救渡
五百目
右ハ大庄屋元諸飛脚賃錢投渡
メ六錢六貫百八拾目
三貫目
右ハ免用春普請建前
三貫六百目
右同断。秋冬普請建前

木屋瀬触

三貫目
右ハ免用春普請建前
三貫六百目
右同断。秋冬普請建前

貳百四拾目
右ハ多賀宮御神幸出夫貳百人分
隔年渡
但、此分直方町投請之内一ケ年百貳拾目宛役
所へ相納候事
六拾目
右ハ節村賃直方町渡
六拾四匁
右ハ岡森井手脇竹藪垣結夫錢、縄代共ニ上境村
投渡
五百目
右ハ大庄屋元諸飛脚賃錢投渡
メ六錢七貫四百六拾四匁
合六錢貳拾六貫五百三拾九匁
右ハ一触切出夫ニ相勤可申廉々
貳百目
右ハ通前度々先掃除として夫貳人充、庄屋召連
罷出候夫賃錢投渡候分
五百貳拾五匁
右ハ諸通衆度々木屋瀬・植木両川波戸築立夫并
空俵代、川越夫賃錢ともニ投渡
但、直方川ハ同所投受ル相勤ニ付除ル
壹貫百九拾目
右ハ諸通衆度々植木・木屋瀬・直方三ヶ所川々
渡船添加子賃錢
三百目
右ハ六宿通往還并赤間往還共ニ洪水之節小破取
結イ夫賃錢
六貫五百拾匁ハ木屋瀬宿投受面役三百拾人之
此外
夫錢加メ都合三拾貫四百四拾六匁九分三厘建前
合
貳拾三貫九百三拾六匁九分三厘
右ハ木屋瀬宿間通足錢之内
貳貫七百五拾目
右ハ木屋瀬宿御茶屋并兩町茶屋、直方多賀宮、
雲心寺、双林院御当用普請之節、竹木伐持出諸
職人手伝夫、其外年始鋸諸品代ともニ

壹貫五百目

右ハ他郡所々御茶屋，御軒付寺社，新川両唐戸
車返し，郷夫木屋入用材木伐・持出・郡次夫，
御茶屋々々御用樫炭持出夫錢共ニ

三貫目

右ハ木屋瀬郡家不断用薪伐持出，菰蓆・縄・草
履・草鞋・松明并垣巡リ，家上替替，年中掃除
夫，地仕夫，内夫，其外共ニ一切夫錢

五百四拾目

右ハ郷夫方并紙方，炭方，人馬賃錢
犬鳴・脇田・頓野・木月，右村々渡

六百五拾目

右ハ木屋瀬宿雜用救渡

九拾目

右ハ秋代竹伐立并上頓野村御用鋤垣繕夫賃錢共
ニ

貳百六匁

右ハ御国境并郡境御山輪地焼夫錢投渡

百拾貳匁五分

右ハ直方実植所入用日覆イ竹枕実持出夫錢
但，実植所御用一切ハ直方町投受ヨリ相勤候
ニ付除ル

五拾六匁貳分

右ハ脇田村紙役所入用之薪取夫

百五拾目

右ハ内ヶ磯大鋸木屋修覆并同所茅疊三拾枚三ヶ
年巡修覆料

四百五拾目

右ハ同所山方定宿内夫薪・草履・草鞋代ともニ
百八拾目

右ハ木屋瀬村節村賃錢投渡

八百目

右ハ犬鳴谷人參畑入用夫錢，御庭方渡

八百八拾八匁

右ハ人馬仕組方請持大庄屋藤平，木屋瀬村庄屋，
同宿問屋三人給米三拾俵代，壹俵ニ付凡三拾七
匁充

六錢三拾七貫五百貳拾四匁六分三厘

右ハ郡中ニ掛リ候夫役ニ付，触分ヶ之無差別惣
夫高ニ相勤可申廉々也

丸二口

合六錢六拾四貫六拾三匁六分三厘

残六錢六拾壹貫百五拾目九分七厘

此分全有余ニ，別紙定書ニモ申聞候通，上ヶ
被召上候ニ無之，百姓銘々為之儀ニ付，溜リ
錢余分出来候上ハ，郡中一ト廉之普請其外郡益
ニ相加候義ニモ取用可申候事。

一，六錢百拾五匁五分

右ハ木屋瀬宿投受夫錢間通建前之内ニ相払候残り
分，同宿入用錢臨時ニ切立おいたし候節，此分を以
相償可申候。尤右体臨時入用ホ無之年柄モ同宿面役
ニ割戻し可申事。

右建前夫仕組相立候。已来追々相改候得共，当時諸口御
省略之御時節，別々夫役御厭被下候砌ニ付，猶又評儀
遂勘弁，今般建前古格ニ復シ，近年夫役増減之口々斟酌
致，此帳面相渡候条，無違乱可執行，且又御參勤御
往来ハ御休泊所下宿内夫之外，一切無賃錢ニ相勤
可申由，其外洪水ホ非常之夫仕イハ無賃錢ニ相勤へ
く候旨，両郡一統申合候趣申出候ニ付，建前ニ指除候。
尤非常出夫之節ハ其時々之模様ニ応シ及評儀候儀も可
有之事。

但，近年郡中面役格別之増減も無之候条，年限平均
ホ之不及沙汰，当年之面役高を以規矩相立候条，其
旨可相心得候。且又惣夫錢引受，夫錢と相唱取分有
之居候得とも，是等ハ内業之義ニ付，其方とも申合，
郡中ニ掛候公役ハ無甲乙，且々不直之儀無之様執斗
可申候事。

井 手 勘 七

文化十年二月

鞍手郡

大庄屋中へ

寅十二月			御 国 中	村郡 夫夫	取 分 定 書	明 和 七 年
右	御 全 部	同夫 國中 村郡 夫夫 三取 冊分 帳書 帳				

(表紙)

郡夫可相立定

- 一、御参勤御上下継人馬之事。
- 一、長崎御往来継人馬之事。
- 一、御遊獵ニ付、御滯座、御日帰ともニ継人馬御休所、御獵橋仕調御鋪菰仕調夫、其外品ニ御用夫之事。
- 一、右御往来之節、品ニ郡寄物持送夫、其外内夫、御休所仕調掃除夫之事。
- 一、御大名方江戸御上下、阿蘭陀・長崎御奉行御上下、御茶屋・町茶屋手入掃除夫、御茶屋入用之夫、宿内掃除御先払、川越夫・継人馬之事。
- 但、賃錢渡夫ハ右夫数賃錢無間違相調イ郡奉行ニ申出、私方可得指図候事。
- 尤宿仕組を以賃錢払之分ハ、請負ニ出来候類ハ、右請負年季之内ハ定之通取行可申事。
- 一、御茶屋・町茶屋・寺社之類、惣御作事方ヨリ御普請入用夫之事。
- 一、御用竹木其外御用物郡次人馬之事。
- 一、品ニ諸御用ニ付、定格ニ諸口ノ罷出候諸役人中荷物次送り人馬之事。

但、不時ニ罷出候諸役人无賃人馬、両市中ヨリ宿次ハ町奉行触出往来証拠ヲ以可指出候。郡中ニ多之人馬ハ一切郡奉行人馬証拠無之分ハ堅指出申間

鋪候。私用ホニ罷出候家中ニ多も、御定之賃錢払之分ハ、兩人ノ先触指出候ハ、人馬無滯指出、賃錢無滯請取可申事。

- 一、御茶屋・町茶屋薪明松、其外定格寺社渡ホ之薪伐持出夫之事。
- 一、郡寄繩菰蕨ホ持出夫之事。
- 一、寺社其外郡家、馬指所、籠屋ホ以前ノ郡役ニ家上舊替仕来之場所、茅伐持出蕨持出シ舊立手傳之事。
- 但、家上舊老人郡役式人ニ立候事。
- 一、御崎掛雀藪、其外御旗竿山垣結夫之事。
- 一、秋伐竹伐持出夫之事。
- 一、免用普請其外諸普請材木根伐夫、大鋸手伝夫ホ之事。

但、普請願之村ニ山ニ多伐出之分ハ其村役、他村之山ニ多相渡分ハ伐夫ハ郡夫ニ可立之事

- 一、御国境山々わち伐山焼夫之事。
- 一、急御用ニ多、大庄屋ノ飛脚夫并触下村ニ持廻リ状持夫、召連夫、其外庄屋・組頭諸御用請持、郡用ニ付、所々罷出之御用物夫之事。
- 但、寛御用ハ廻状ニ多相廻シ可申候。廻状之分ハ其村役ニ多相廻シ、郡夫ニ相立申間敷事。
- 一、郡用ニ付、他郡ノ飛脚夫之事。
- 一、格別之御通有之候ニ付、改申付、往還手入掃除、水茶屋、野雪隠仕調夫、其外竹木繩菰持夫之事。
- 一、郡家諸普請夫并内夫地仕イ夫之事。
- 一、御当用免用普請材木挽立、役人之内夫、大鋸内夫之事。

- 一、惣諸役人、郡奉行ホ出郡之節、郡中之事ニ拘リ之分夫仕イ之事。
- 一、御用鳥打、生雲雀ホ捕ニ指出候勢子、持送り夫之事。
- 一、郡ノ御用鮎・鯛・白魚、其外樹木諸品ニ類納夫之事。

但、代銀被下候分共ニ、持夫ハ郡役ニ立候事。

- 一、御山方諸御用、御用橋材木持送夫之事。
- 一、郷夫木屋仕調夫、竹木持出夫之事。

- 一、定格寺社御祭礼ニ付入用夫、其外竹木持出夫之事。
- 一、浜山植立夫之事。
- 一、御膳米撰立夫之事。

但、郡ニ寄忝俵ニ付何程ト撰立、賃錢渡リ之分ハ、
右賃錢已来夫錢溜リ^ル可相渡候事。

- 一、郡作手入夫、右御米附出人馬一切、并入百姓家作
竹木持出夫之事。

但、格別之痛村ハ或ハ余分之田数ニ候ハ、郡役、
其外ハ村役之事。

- 一、往還橋仕調夫之事。
- 一、相定候宿駅其村面役ニ^ル年中間通勤切不申分、郡
^ノ加勢人馬之事。

但、此節相改候其郡面役老人充^ヲ以、其宿面役人
数ニ掛出し一ケ年夫高積上ケ、右宿間通年中人馬
五ケ年拵夫高ト突合セ、勤過之分ヲ目当ニいたし、
現ニ^ル人数極メ郡^ノ助合候共、又ハ夫錢溜リ^ル賃
錢ニ^ル渡候とも、追^テ相改可申出候事。

- 一、郡切立其外郡中一統諸上納錢福岡附出人馬之事。
- 一、村継状、村次人馬格別多キ村方之事。

但、^ケ年状継并人馬継方、其村面役三日仕以上
之人数ニ当リ候ハ、郡加勢可申付事。三日仕イ内
ニ当リ候ハ、村役之事。

- 一、犬鳴谷人參畠仕イ調夫、紙方入用薪伐夫之事。
- 一、郡^ニ実植所御用薪垣結イ夫之事。
- 一、免用并大川水掛普請^ホ惣^ル大造之普請夫之事。
但、年^ニ詮儀之上郡夫ニ^ル申付候分、郡奉行ヨリ
郡夫証廻^ヲ以指図可致候。其外ハ村役ニ^ル可申付
事。

- 一、御用杉・檜・樺実取夫之事。
- 一、郡仕組爐手入其外右ニ付品^ト入用夫之事。
- 一、上座・下座稲作、堀川普請并大川普請、同所網戸
仕調夫之事。
- 一、郡仕立之牛馬之牧桑、猪除之類仕調夫之事。
- 一、兩乞其外虫祈禱流行煩イ祈禱之類、一統ニ^ル取行
候入用夫之事。

但、其度^ト郡奉行^ニ申出、得指図之上、取行可申
事。

- 一、後^ロ浜鉄炮場築立、御上覽所仕調夫之事。
- 一、御味爪畑御用之諸品々伐持出夫之事。

ノ四拾三ケ条

右ケ条之趣ヲ以、夫^ト郡夫召仕イ可申事。不指掛事ハ
申出得指図可申候。前^ニ郡夫仕イ之分たりとも、一村
限り候義ニ^ル、郡ヘ引受可申筋無之相見候類ハ、其度
^ト郡奉行^ニ申出、得指図、村夫ニ可申付候。仕来リ候
とて其分ニ指置、郡夫ニ申付候ハ、急度可申付候。
惣^ル右ニ洩^レ候義ニ^ルも、郡中ヘ拘リ候事ハ郡役ニ相
立、一村限り之事ハ郡役相省キ村役ニ可申付候心得ヲ
以可取行事。

村役ニ可相立定

- 一、一村ニ引切候井手堤、水除普請入用之杭葉伐持出
夫之事。

但、堤井手水掛組合村有之ハ、組合ヲ一村之心ニ
^ル取行可申事。

- 一、一村^ニ引切候諸普請材木持出之事。
- 一、惣^ル一村定諸願ニ付、郡奉行其外諸役人出勤入用
人馬之事。

但、御用相済引取送夫人馬次村迄ハ其村役ニ候
事。

- 一、村^ト給知地頭用品^ト入用夫之事。
- 一、返上願村送迎人馬^ホ惣^ル一切村役之事。
- 一、村^ト堀川溝堀浚土手其外諸普請夫之事。
但、格別之大人数入之義ハ、詮儀之上郡夫加勢を
以可申付候事。

- 一、一村切抱往還平日手入普請之事。
- 一、地頭納物之事。
- 一、村用ニ^ル郡奉行役所^ニ申出之品^ニ夫仕之事。
- 一、一村立之拜借物上納錢持出夫之事。
- 一、宮藪垣廻リ仕調夫之事。

但、前^ニ郡夫ニ^ル仕来候共、一村之氏神ニ候ハ、
村夫ニ^ル仕調夫之事。

- 一、郡奉行・大庄屋^ノ郡一統之儀ニ付持廻候廻状次送
リ夫之事。

但、急御用ニ付大庄屋^ノ持廻リハ郡役ニ相立候

事。

一、村次状次人馬余分ニ候とも、一ケ年入用高其村面役三日仕内ニ相当候ハ、郡役ニ不相立候事。

メ十三ケ条

右ケ条之趣相心得村夫ニ可申付候。是迄村夫・郡夫之取分郡と区とは相聞ヘ候。畢竟一統之定無之故ニ候間、道理之取様ニ^る村夫を以郡夫ニ願受候指働候庄屋・組頭ハ、一村之百姓共能庄屋と気伏仕候様相心得候段、尤成る方便ニ候得共、根元不宜不法之義ニ^(昧)る、愚昧之百姓を随氣致させ候儀ハ不風俗成る事ニ^る、其一村之庄屋・組頭・百姓とも迄至^る恥辱なる事と心得、右舛之不所存成儀を連と示教致し、正道ニ取行候様ニ大庄屋・才判庄屋ともニ出情いたし、有体ニ郡夫・村夫取分、右ケ条を以相調子、何レニも本文ニ洩レ候様之儀有之候共、其一村ニ拘り郡夫ニ拘り無之筋之儀ハ、何品ニよらず其村として引請可申筈と心得、乍然一村之力ニ実と難及所ハ、正道ニ相糺、郡夫加勢相願候と申儀全儀之本意ニいたし可申事ニ候。尚又能存寄之儀ハ其度々郡奉行ヘ申出可得指図候事。

右郡夫・村夫仕方取分定書、今度郡と一統ニ相改候条、以来無異乱執斗可申事。

明和七年寅ノ十二月

津田源次郎
富永甚右衛門
味岡團右衛門
嶋井市太夫
永田伊左衛門
御國中 大庄屋中
郡夫才判
庄屋中

右郡夫・村夫取分定書致中絶居候ニ付、此節改写相渡者也。

井手勘七

文化十年酉二月

諸証拠取斗之定書

一、修覆錢、郡錢、夫錢共ニ毎月左之兩度ニ限、大庄屋ノ役所ヘ可被指出候。不時ニ村ノ指出候分ハ不

及調子差返候事。

但シ、触と共ニ大庄屋手元^(マ)ヘ諸証拠間通修、郡夫と式冊宛仕立置、証拠指出候度々間通本行ニ員数を記し、何御用何方之何某ニ渡りと申事、脇書ニ致シ可被指出候事。

六日 遠賀鞍手共ニ
陳原飛脚
廿二日 右同
立德飛脚

但シ、七月も四日飛脚山口ノ指出、不方角之所ハ臨時飛脚を以堅同日指出、十二月十日岩瀬飛脚ニ指出、七月六日・十二月廿二日ハ仕出被中間鋪候事。

一、役所ニ^る取調子定日

八日ノ十二日迄
但シ、七月ハ六日ノ八日迄。
廿四日ノ廿六日迄
但シ、十二月ハ十二日ノ廿四日迄。

一、都^る仕出証拠、大庄屋手元ニ^る道法、或モ吾人之当リホ違無之様、重疊加吟味可被指出候。違ひ証拠ハ間通ニ消点いたし指返候事。

一、右之証拠共ニ渡判相済候日ノ四十日限ニ相定候。右日限之内堅銀預リ候証拠付可申候。日切レ之証拠ハ銀主ノ不相渡様申付置候条、如何様之訳ニ^る日切ニ相成候と申訳、其証拠持主ノ書附添役所ヘ指出可被申候。御当用証拠ニ準シ候得ハ、日切之証拠モ捨リニ相成御作法ニ候得共、遠郡殊ニ小百姓之手ニモ相渡候証拠ニ付、日切之分モ其訳相立候分ハ日延書入被納渡候事。

右之通村々^(ノ)も重疊被申附、無違乱可被取行候事。

酉ノ六月

修覆錢、郡錢、夫錢請取証拠、是迄ハ追と指出ニ相成、渡判相済候ヘハ役所ノ間通ニ付込、指送り来候得共、右之通ニ^るハ受渡之始末連続不致候ニ付、以来別紙定書之通取斗候義間通ニ相出候条、村々^(ノ)も重疊御心得させ、以来定書之通無違乱御取斗可有之候。尤新ニ相立候定ニ付、自然之業ニ掛不得止事指支之筋ホ有之候

ハ、幾重ニも増補いたし候道も可有之候条、夫等之处
ハ無遠慮御申出可有之候。此段申達候様被申聞候。已
上。

八月十三日

勘 七 役 所

大庄屋四人ニ当ル

安永藤四郎高寛改

後記

小稿の校了直前に一田家文書の中にも同史料がある
ことを知ったが、対校出来ず、一部参考にするにと
どめた。他日を期したい。なお貨幣単位の下に付せ
られ記号化されているハは省略した。